いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

Ｎｏ.２１　入間市の道（１）

――昔の道探し①――

（鎌倉街道枝道）

―入間市立図書館―
協　力・入間市博物館

古い道のそばには、お地蔵さま・馬頭観音・道祖神・道しるべ（道標）などが残っています。

道端にひっそりと隠れているよ！

現在、入間市内には国道１６号線、２９９号線、４６３号線などの大きな道が通っています。

これらの道は、後にバイパス道路がつくられたため大きく様変わりしましたが、もとの国道は昔から入間市域の村々と他の村々を結び、人々が行き来してきた古い道が元になってできたものです。

今の入間市の道を見ながら
昔の道を探す旅に出発だ！

《入間市内を通る昔の道》

①入間市内で「鎌倉街道」と呼ばれていた道（鎌倉街道上道の枝道と思われる）

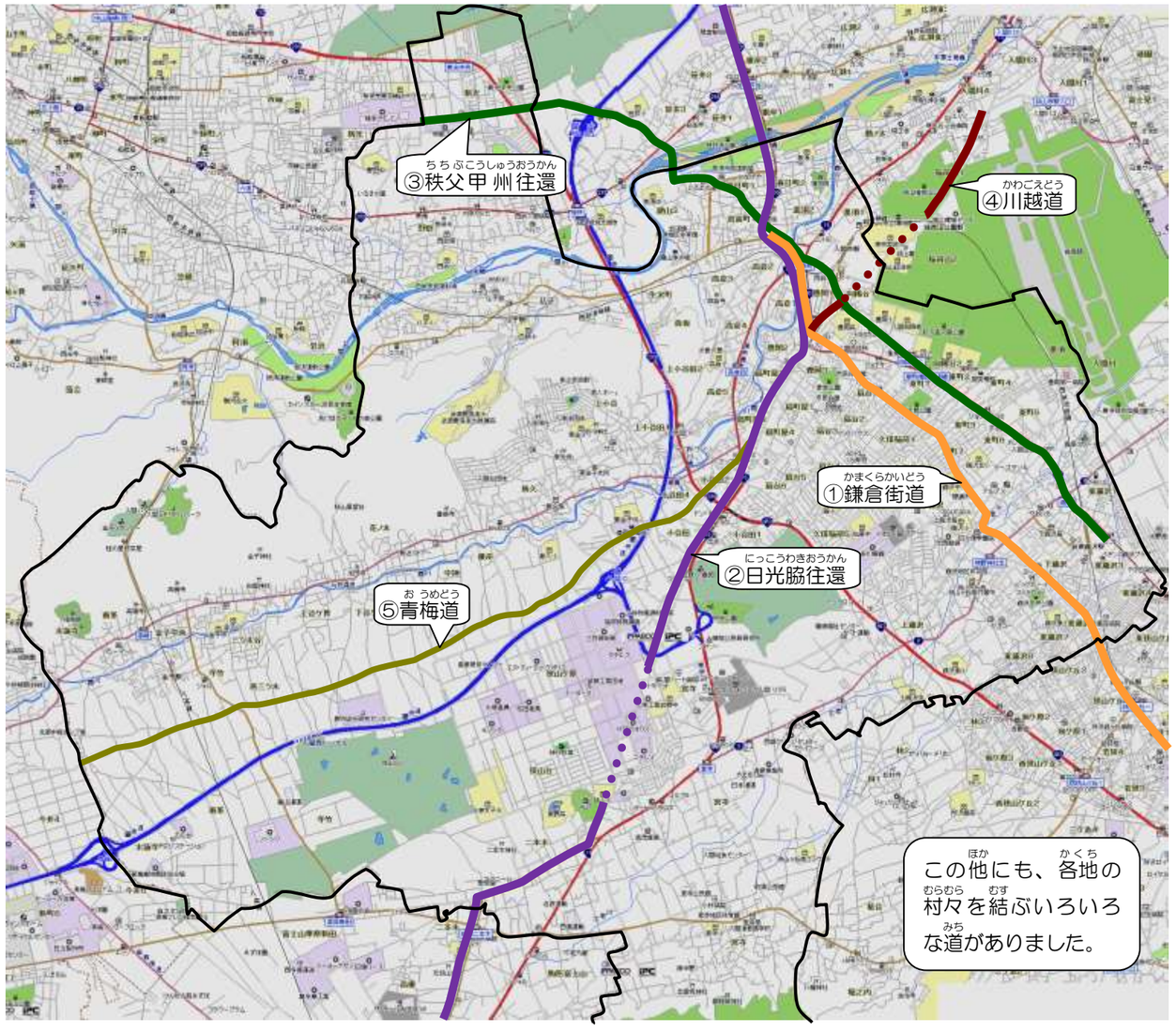
②日光脇往還（Ｎｏ.22で説明します）

③秩父甲州往還（Ｎｏ.23で説明します）

④川越道・⑤青梅道（Ｎｏ.24で説明します）

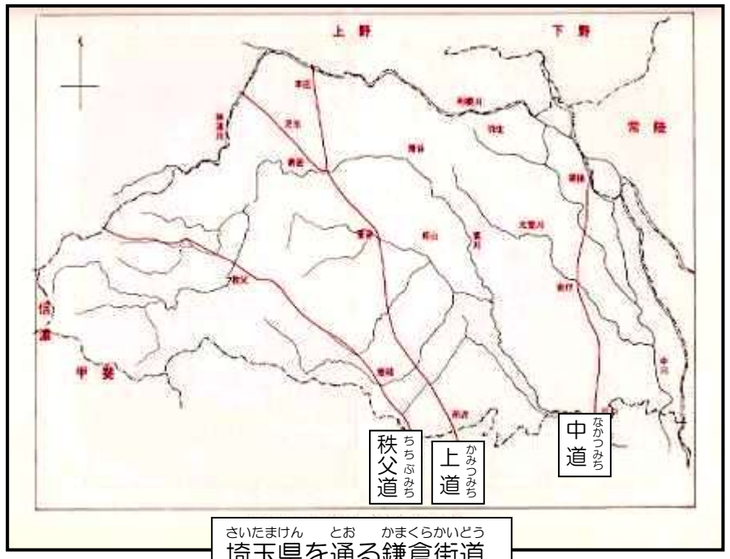
など。

※参考資料は、Ｎｏ.24にまとめて載せます。



（1）入間市内の鎌倉街道

本来の鎌倉街道ではありませんが、入間市内にも、地元の人たちに「鎌倉街道」の名で呼ばれている古い道があります。東京都東村山市で鎌倉街道の「上道」から分かれた枝道だと思われ、今でもまだその大部分を辿ることができます。



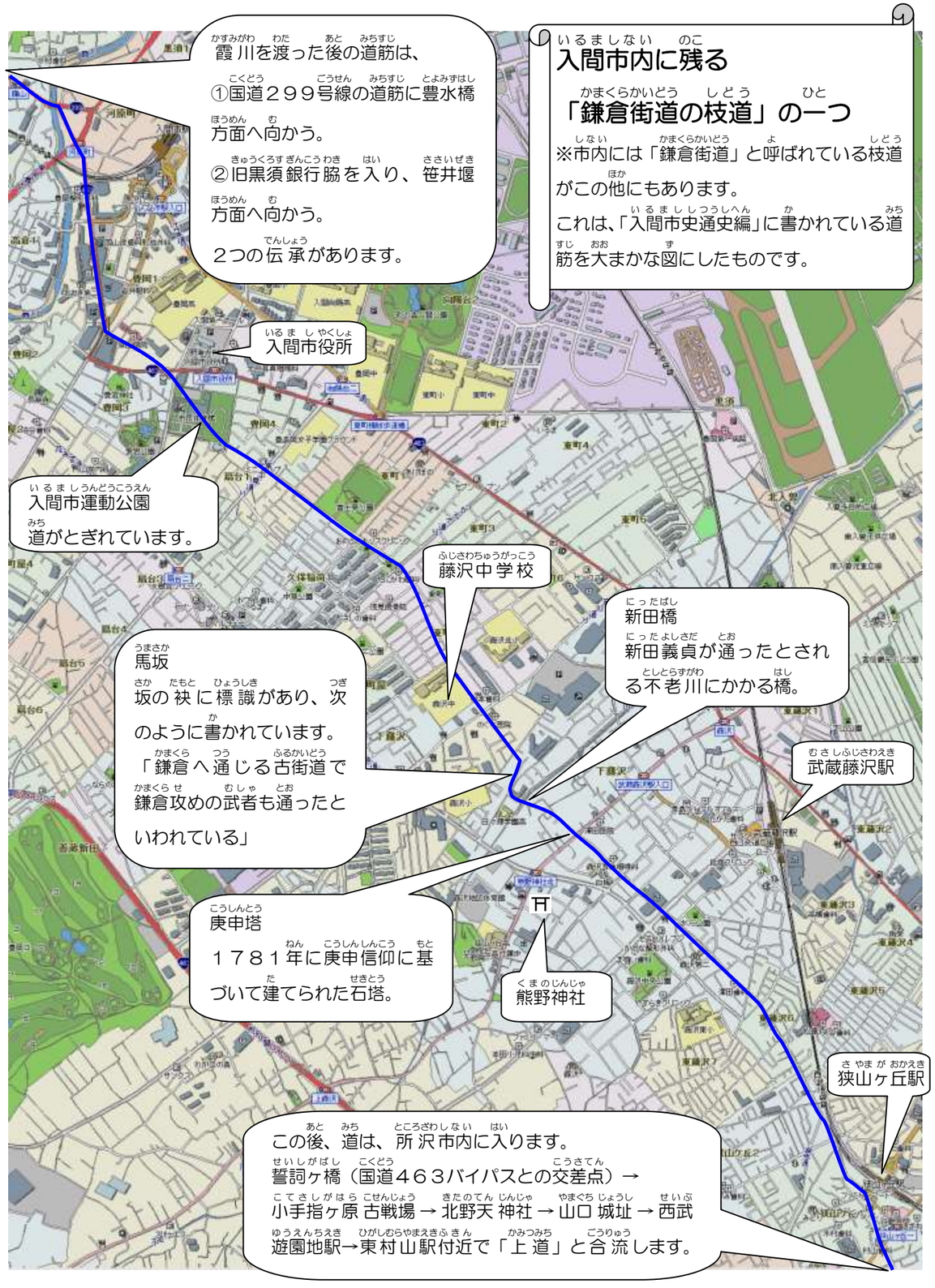
埼玉県を通る鎌倉街道

鎌倉街道とは？

「歴史の道調査報告書第１集
鎌倉街道　上道」より
埼玉県教育委員会　刊

鎌倉時代（１１９２～１９３３）に、幕府が置かれていた鎌倉と東国各地を結ぶ道を「鎌倉街道」と呼びました。信濃（現在の長野県）に向かう「上道」、奥州（現在の東北地方）へ向かう「中道」、房総・常陸（現在の千葉・茨城県）に向かう「下道」の３つの街道があり、そのうち入間市に一番近い所を通っていたのだが、「上道」です。この道は古代（古墳時代～平安時代）のころから、武蔵国の国分寺を建てるための大量の瓦を運ぶために使われていたと思われます。江戸時代の初めごろまで、道沿いに宿場ができるなどして栄えていましたが、江戸幕府によって中山道などが整備されるにつれて、だんだん廃れていきました。

昔は、ほとんどの人が歩いて旅をしました。



いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

Ｎｏ.２２　入間市の道（２）

――昔の道探し②――

（日光脇往還）

ー入間市立図書館ー
協　力・入間市博物館

（2）**日光脇往還**（道標などには「日光道」とも書かれています。）

東京都八王子市と栃木県日光市を結ぶ道。

江戸時代に、八王子の千人同心が日光東照宮の「火の番役」につくための往復に使ったため、この名で呼ばれています。

二本木村と扇町屋村は千人同心の馬を交換したり、休憩や宿泊をする宿継場でした。

また、普通の人も荷物の運搬や神社のお参りなどにこの道を使ったので、江戸時代の扇町屋村は道の左右に商家や旅籠（宿屋）が軒を連ねていました。

「３」と「８」のつく日には市がたつようになって(「六斎市」)、大変賑わいました。

そのため近隣の村々からの道が集まってきて、この道は主要な幹線道路となりました。

☆　参考資料は No.24 にまとめてのせます。

「八王子千人同心」とは？

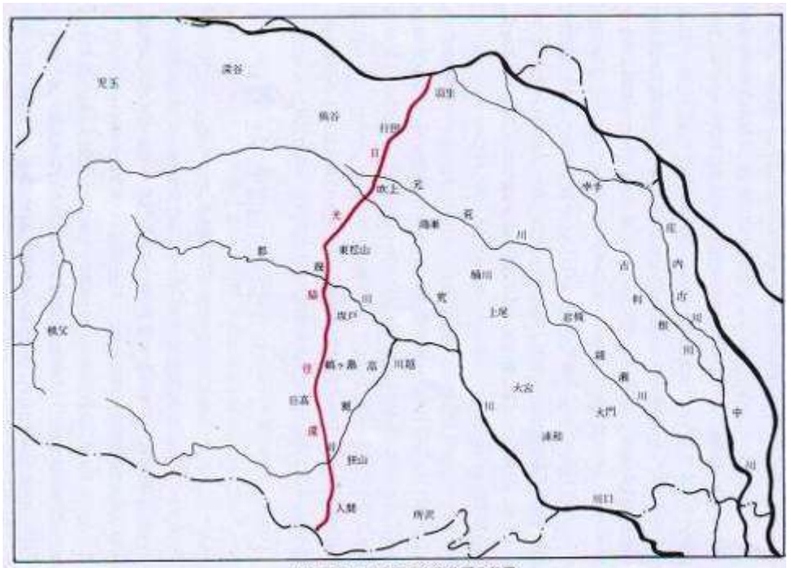
徳川家康は、関東を治めるようになると、甲州（現在の山梨県）との境を守るために御家人たち（元武田氏の家来）を八王子に移住させました。その御家人の集団を「八王子千人同心」と呼びます。江戸幕府の体制が固まり、社会が平和になると、その仕事は戦への出陣から、江戸城や将軍の警護といったものになり、１６５０年頃からは日光の東照宮の「火の番役」が主な仕事となりました。また、普段は農民の暮しをしていました。

千人同心の「株」（資格）は、後に大金を払って譲り受けることができるようになったので、現在の入間市域の村からも千人同心を務めた人が現れました。

かわらばん　いるまニュース！！

根岸小谷田村の　中島惣次郎さん、千人同心となる！

天保11年（１８４０）に、６２両で千人同心の株を譲ってもらい、その後、息子の熊太郎さんと２代にわたって千人同心を務めました。



埼玉県内における日光脇往還の位置

八王子～日光の旅は片道３泊４日もかかりました。そうやって千人同心の人たちは、江戸時代の間なんと１０３０回もこの道を行き来したのです！

「歴史の道調査報告書④日光脇往還」
（埼玉県教育委員会）より

【日光脇往還の道筋】《道筋についてはNo.21の地図を見てください。》

東京都

八王子市千人町

昭島市　拝島

瑞穂町　箱根ヶ崎

右　青梅
左　大山　八王子
と、記されています。

□は宿継場。次の宿継場までの輸送に使う馬が用意してありました。八王子から日光までの間に２１か所の宿継場があり、そのうち入間市域にあったのは「二本木」と「扇町屋」の宿継場です。

←二本木・長田交差点の道標
（「入間市の指定文化財案内」より）

埼玉県

入間市　二本木

◎「長田」交差点を右へ曲がる。〔左へ曲がると「青梅街道」へ〕
《ここには市内で　一番古い道標（延享元年１７４４年のもの）がある。》

（宮　寺）

◎国道１６号線との合流点の手前で左に入る。入間市博物館・狭山小学校の右側の道を真っ直ぐ進み、丁字路に出る。（つきあたりは養鶏場）

日光脇往還は、このまま直進しますが、昭和９年（１９３４）にこの辺りに「狭山飛行場」が建設され、その後「武蔵工業団地」となり、現在９００メートルほど、道が失われています。

（小　谷　田）

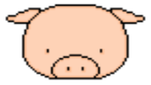
◎「狭山開墾記念碑」の立つＹ字路の交差点（圏央道、入間インターチェンジ料金所手前付近）で碑を左手に見ながら真っ直ぐ進み、ゴルフ場（武蔵カントリークラブ豊岡コース）の入口付近で国道１６号線と合流する。

扇　町　屋

◎国道１６号線を約１キロメートルほど進み、「入間市扇町屋」の交差点を直進して、「町屋通り」（旧国道１６号線）へ入る。

交差点より３００メートルほど進むと、左手に「扇町屋上町地蔵堂」（扇町屋３丁目）があり、ここで合流する細道が「青梅道」。

右ページへ続く



扇町屋では
・行きは昼食
・帰りは宿泊をしました。

（豊　岡）

◎「町屋通り」を真っ直ぐに進み、サイオス前のＹ字の交差点を左へ進む。
Ｙ字路の交差点の手前を右に入り、原田病院、豊岡高校の前の道へ行くと「川越道」。

◎まるひろ百貨店と入間豊岡市街地住宅の辺りの坂（「町屋坂」、「黒須坂」などと呼ばれている。）を下り、河原町の交差点へ出る。
河原町の交差点では、所沢方面と秩父をつなぐ「秩父甲州往還」と合流する。

◎現在の霞橋の所で霞川を渡る。

◎郷土民芸館の所で「秩父甲州往還」と分かれ（「秩父甲州往還」は「笹井の渡し」の方へ向かう）、「根岸の渡し」（現在の豊水橋付近）で入間川を越える。

現在の国道四〇七号線とほぼ同じ

狭山市　根岸
高萩　（日高市）
坂戸（市）
高坂　（東松山市）
松山　（東松山市）
行田（市）
群馬県　川俣　（明和村）
館林（市）
栃木県　佐野（市）
富田　（大平町）
栃木（市）
合戦場　（都賀町）
金崎　（西方町）
楡木　（鹿沼市）
鹿沼（市）
文挟　（今市市）
今市（市）
日光（市）

※ここに挙げたのは、日光へ向かう「行き」の宿継場です。
「帰り」のときは、それぞれ
・川俣　→　新郷（羽生市）
・楡木　→　奈佐原（鹿沼市）
・文挟　→　板橋（今市市）
と変わりました。
道筋については、
・「入間市史通史編」
・「歴史の道調査報告書④日光脇往還」に、
詳しく書かれています。

いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

Ｎｏ．２３　入間市の道（３）

――昔の道探し③――

（秩父甲州往還）

―入間市立図書館―
協　力・入間市博物館

雁坂トンネルは平成10年開通の新しいものですが、雁坂峠をこえる道はとても古い道なんだよ！

（3）秩父甲州往還（「江戸道」ともよびます。）

昔、武蔵の国（今の東京都と埼玉県の辺り）と甲斐の国（「甲州」ともいう、今の山梨県）を結ぶ道には次の３つがありました。

江戸日本橋

①内藤新宿 ―― 《甲州街道》 ―→ （笹子峠） ―→ 甲斐の国

②→ 田無宿 ―― 《青梅街道》 ―→ （大菩薩峠） ―→ 甲斐の国

③→ 所沢 ―― 秩父甲州往還》 ―→（旧正丸峠）―→ 秩父 ―→（雁坂峠）―→ 甲斐の国

このうち③の道筋を「秩父甲州往還」と呼びます。

雁坂峠（埼玉県大滝村と山梨県三富村を結ぶ峠）の道沿いには、日本武尊の伝説が多く残されていることから、古くからあった道だと思われます。また、戦国時代には甲斐の武田氏が、甲府盆地の守りを固めるために、国境に関所を作り、国の外へ出ていく街道を整備しました。「秩父甲州往還」もその一つです。

その後、この道は甲斐の国と武蔵の国を結ぶ重要な道として利用され、発展してきました。

（1）信仰の道として

この道を通ってお参りした行き先はどんなところ？

どこへお参りしようかな？

・子の権現　（飯能市）

古くから「足と腰の仏様」として信仰され、江戸時代にはたくさんの人がお参りに来ました。

・秩父３４札所

江戸時代に、西国・坂東の札所とあわせて「百観音霊場」となると、江戸に近いこともあり、人々の間に札所巡礼が流行しました。

・三峰神社（大滝村）

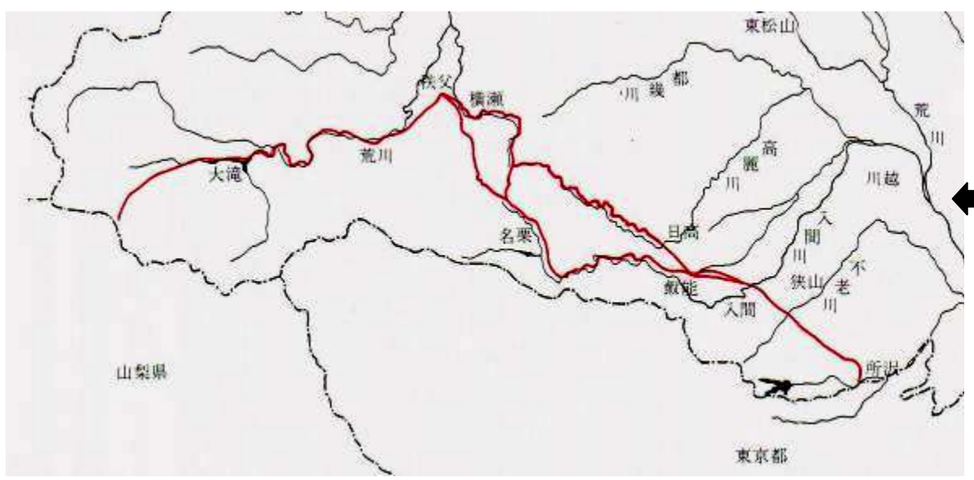
江戸時代に猪や鹿などの害獣や火事・盗難除けに「山犬（狼）」のお札を発行したので、人々がお札をもらいにお参りをするようになりました。

（2）物資の流通の道として

江戸 ➡ 秩父 ➡ 甲州・信州（山梨・長野県）と物資を運ぶ重要な道の一つでした。

そのため道沿いには、近くの村々の産物を商う「市」（六斎市）が開かれ、だんだん町場ができていきました。

「六斎市」とは、１か月に６回開かれる市のこと。



「歴史の道調査報告書第１１集　秩父甲州往還」（埼玉県教育委員会刊）より

入間市内に残る「秩父甲州往還」の道すじ

出発地です。

内藤新宿（東京都新宿区）

中野（東京都中野区）

田無（東京都西東京市）

所沢（東京都所沢市）

これは「歴史の道調査報告書　第１１集　秩父甲州往還」（埼玉県教育委員会　平成２年刊）に書かれている道筋を大まかな図にしたものです。

入間市以外の道すじについては、主な宿継場のみを載せました。

宿継場は、「新編武蔵風土記稿」の記載です。

いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

Ｎｏ．２４　入間市の道（４）

――昔の道探し④――

（青梅道・川越道）

―入間市立図書館―
協　力・入間市博物館

入間市域の村々から青梅へ向かう道だから「青梅道」
川越へ向かう道だから「川越道」と呼びました。

※現在ある「青梅街道」や「川越街道」とは違います。

（４）青梅道（「青梅街道」ともいう）

扇町屋から青梅市今井方面へ向かう道。
近くの村々から集められた物資を運んだり、御嶽神社（青梅市）へのお参り、
小河内村（現在の奥多摩町）への湯治などの人の行き来に使われた。

◎扇町屋上町にある子育地蔵脇の
を細い路地を入る。

◎そのまま進み、国道１６号、
２９９号バイパスを横切り、
「茶どころ通り」となる。

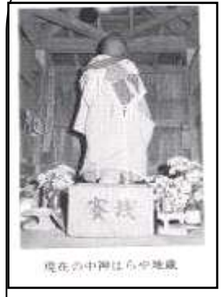
◎そのまま「茶どころ通り」を
進み、「いちょう通り」・ＪＲ
八高線を越えて青梅市へ入る。

※霞川の南の台地の上を東西に通る青梅道は、途中民家もない畑の中を通っていたため、地面の状態も悪く、雨が降ると大変でした。
また霞川の北側にも、加治丘陵のふもとに沿って民家の間を通る道（昔の「根通り」）がありましたが、上り下りや、曲がりくねった所が多く、交通には不便でした。そのため、昔からあった道をもとにして、霞川に沿った平らな道をつくる工事が行われ、明治２４年（１８９１）完成しました。これが現在の「主要地方道　青梅・入間線」です。

「青梅」行きのバス通りのこと。
通称「根通り」または「金子新道」とも呼ばれています。

青梅道沿いにはこんな　文化財が残っています！

◎中神の「はらや地蔵」



宝永５年（1708）に建てられた「子育て地蔵」の石仏。

安政３年（1856）の銘がある。

◎扇町屋上町地蔵堂わきの道標

左	正面	右
大山　今熊山	婦し山　高尾山	是よりご本社へ七里	右　みたけ山道	小河内原湯　青梅道
←日光脇往還		青梅道→

- 小河内原湯・・・現在、小河内ダムに水没した鉱泉（奥多摩町）
- みたけ山・・・・御嶽神社がある（青梅市）
- 婦し山・・・・・（富士山のこと）
- 高尾山・・・・・薬王院がある（八王子市）
- 大山・・・・・・阿夫利神社がある（神奈川県）
- 今熊山・・・・今熊神社がある（八王子市）

（５）川越道

豊岡のサイオス前の三差路の手前で日光脇往還から分かれ、入間川の町（狭山市）を通って川越へと向かう道。

◎サイオス前三差路から、原田病院や豊岡高校の北側の道を進む。

けやき通りを越えたあと、入間駅前プラザの敷地内をぬけて稲荷山公園方向に向かった。

現在、けやき通りより先（点線の部分）の道は失われています。

※途中、狭山市とのあいだに岩石が露出した急な坂道「石名坂（石無坂ともいう）」があって危険でした。

そのため明治時代に、現在狭山市との境になっている辺りから黒須団地脇へと下りる新しい道がつくられました。

新しい道は、現在の「馬頭坂線」とほぼ同じ道筋であったと考えられます。

新しい道は、そのあと国道１６号の北側をほぼ平行して進み入間川の町へ向かいます。

＜No.21・２２・２３・２４の参考資料＞

「歴史の道調査報告書①鎌倉街道④日光脇往還⑪秩父甲州往還」（埼玉県立博物館編　埼玉県教育委員会　刊）

「入間市史（通史編・民族文化財編）」「入間市の文化財⑦⑧」

「入間市博物館常設展示図録」「入間市博物館古地図シリーズ③三ツ木村絵図」

「町村長物語」（入間市文化財研究同好会　刊）「入間のよもやまばなし」

「さいたま歴史街道」（吉本富男編　埼玉新聞社　刊）

「角川地名大辞典⑬東京都」（角川書店　刊）

「入間市の古道」（淵泉善次郎　著・刊）

道路や施設の名まえは、「ゼンリン住宅地図入間市」を参考にしました。

この道ぞいには…

扇町屋下町の道祖神道標

日光脇往還と川越道の分かれ道の所にあった道祖神。

享和２年(１８０２)の銘があります。

旅行中は事故に病気・けが・追剥・泥棒など不安がいっぱい。神様が守ってくれるとうれしいね。

左	正面	右
従是 日こう まつ山	道祖神	従是 入間川 川越 道

←日光脇往還　　川越道→

※まつ山とは、現在の東松山市のことです。

※道祖神は、村の中に悪いものが入ってくるのを防ぐとともに、旅人を守ってくれる神様です。

道のそばに残っているお地蔵さまや道しるべは昔の道のようすを僕たちに教えてくれるよ。

いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

Ｎｏ．２５　入間市の道（５）

――変わっていく道――

ー入間市立図書館ー
協　力・入間市博物館

古い道の中には、今も使われているものもありますが、上り下りが多くて歩きにくかったり、遠回りだった道は、別に新しい道をつくったり、地形を変えて歩きやすくしたりしました。今回は長い年月の間にようすが変わってきた道を紹介します。

① 金子坂

加治丘陵の北側の仏子と南側の新久を結ぶ坂。
鎌倉武士の金子十郎家忠が、この地に住んでいたため、または仏子にあった親範（家忠の弟）の館に金子郷から通うときに通ったためにこの名がついたという言い伝えがあります。
江戸時代にまとめられた「新編武蔵風土記稿」にも、その名が記されている古くからある道です。

むかしの金子坂は…

八坂神社から南の道筋は、現在でははっきりしません。

途中、寂しい所があります。
行ってみるときは大人と一緒にね。

金子坂について・参考にした資料

「入間市の文化財④⑧」
「入間市史　中世史料・金石文編」
「市報いるま３６６号」
『入間わがまち　いま・むかし』）

＜新久側＞　金子病院前から山を上がる。

↓

（詳しい道筋は現在では分かりません。）

↓

＜頂　上＞　八坂神社

↓

＜仏子側＞尾根道を通って、国民宿舎入間グリーンロッジ（今は廃止）付近に下りる。

その後

①明治２７年（１８９４）の開削。
・新久側は、ほぼ現在の道（いちょう通り）になる。

八坂神社へ入る所に、「金子坂新道開削記念碑」があります。

②昭和８～９年（１９３３～４）の改修。
・仏子側が、ほぼ現在の道（いちょう通り）と同じ、崖の中腹を通る道になる。

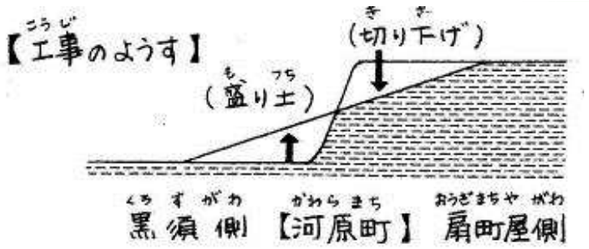
その後も、たびたび道を広げるなどの改修・整備が行われて、今の金子坂となりました。

②　町屋坂（黒須坂）

日光脇往還の道筋の中で、扇町屋と黒須の間の河原町付近には険しい坂道があり、通る人は大変でした。

そのため　明治２２年（１８８９）にこの坂（町屋坂または黒須坂という）の切り下げ工事を行いました。

この道は霞川の流れに沿っているため、明治３２年（１８９９）には霞川の洪水によって道路が崩れてしまい、大がかりな改良工事をすることとなりました。



このような工事で坂をなだらかにしました。

その後も何度か道の拡張工事が行われ、現在のような坂になりました。

※昔の坂の段差のようすは、河原町交差点付近の崖や入間市駅西側の西武池袋線の鉄橋の高さに、今も見ることができます。

この坂を黒須の人たちは「町屋坂」扇町屋の人たちは「黒須坂」とそれぞれ坂を通った先の行き先の地名で呼んだからです。

町屋坂・黒須坂について

参考にした資料

「入間市史　民俗文化財編」

「入間市の文化財④」

③　成木道（現在の県道富岡・入間線）

仏子は昔から機業（繊維業）が盛んでしたが、東方向の仏子～牛沢～黒須には連続した道がないので里道を通るしかなく、交通に不便でした。そのため、豊岡・所沢方面への道を求める声が強くなり、明治２０年代より、黒須～仏子間にしだいに新しい道が開かれていきました。

しかし、仏子の西は阿須（飯能市）との間に高い山があったため、一度川を渡って野田～岩沢～笠縫～落合～岩淵と入間川の北側へ遠回りをしなければなりませんでした。そこで阿須の山を切り開いて道を通す運動を長い間行ってきました。

ようやく大正９年（１９２０）に工事が始められ、昭和２年（１９２７）に「仏子（阿須）の切り通し」が開通し、現在の「県道　富岡・入間線」（黒須～仏子～飯能市阿須～南高麗～青梅市成木を結ぶ）となりました。

「仏子の切り通し」は７年の年月をかけて行われた難工事でした。工事の完成を記念して、「阿須山新道記念碑」（１９２９年銘）が切り通しの道路脇に建てられています。

成木道について

参考にした資料

「入間市史　民俗文化財編」

「入間市史　中世史料・金石文編」

「飯能市史　通史編」

「入間市の文化財④」

いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

Ｎｏ．２６　入間市の道（６）

――新しい道路――

ーいるましりつとしょかんー
協力・入間市博物館

【江戸時代】

幕府によって五街道などの主要な道が整えられました。

※五街道とは・・・

東海道・中山道・日光道中・奥州道中・甲州道中の５つの道のこと。

【明治時代】

・明治６年（１８７３）、政府は道路の修理や管理にかかる費用の負担の割合を定めるために、全国各地の道路を３つの等級にわけました。

・明治９年（１８７６）、全国の道路を「国道・県道・里道」の３種類にわけなおしました。

（それまでの「一等道路」が国道になる。）

【昭和】

・昭和２７年（１９５２）、国道の中でも、１級と２級の等級がつけられました。

・昭和４０年（１９６５）、国道の等級は廃止され、すべての国道が「一般国道」となりました。

・入間市内を通る国道は１６号・２９９号・４６３号です。

4・16・17・122・125・140・254・298・299・354・407・462・463号　これが埼玉県内を通る国道です。

「埼玉年鑑´９４」より

①国道１６号

横浜を起点・終点として、東京の外側約３０キロのところを一周する東京環状線です。昭和２８年に「２級国道１２９号」に指定され、昭和３７年5月に「１級国道１６号」に昇格、現在は「一般国道」です。地図の■色

国道１６号の道筋は

◎「八王子（東京都）～入間市河原町」区間は「日光脇往還」

◎「入間市河原町～狭山市入間川」区間は「川越道」

が、もとになっています。

首都近郊を横に結ぶ重要な道路であるため交通量が多く、それに対応するために、各地でバイパスがつくられてきました。

この辺りでは・・・

狭山バイパス

昭和３８年３月に完成。鵜ノ木～上奥富区間の入間川地区の市街地を迂回するバイパス。

武蔵バイパス（高倉バイパス）

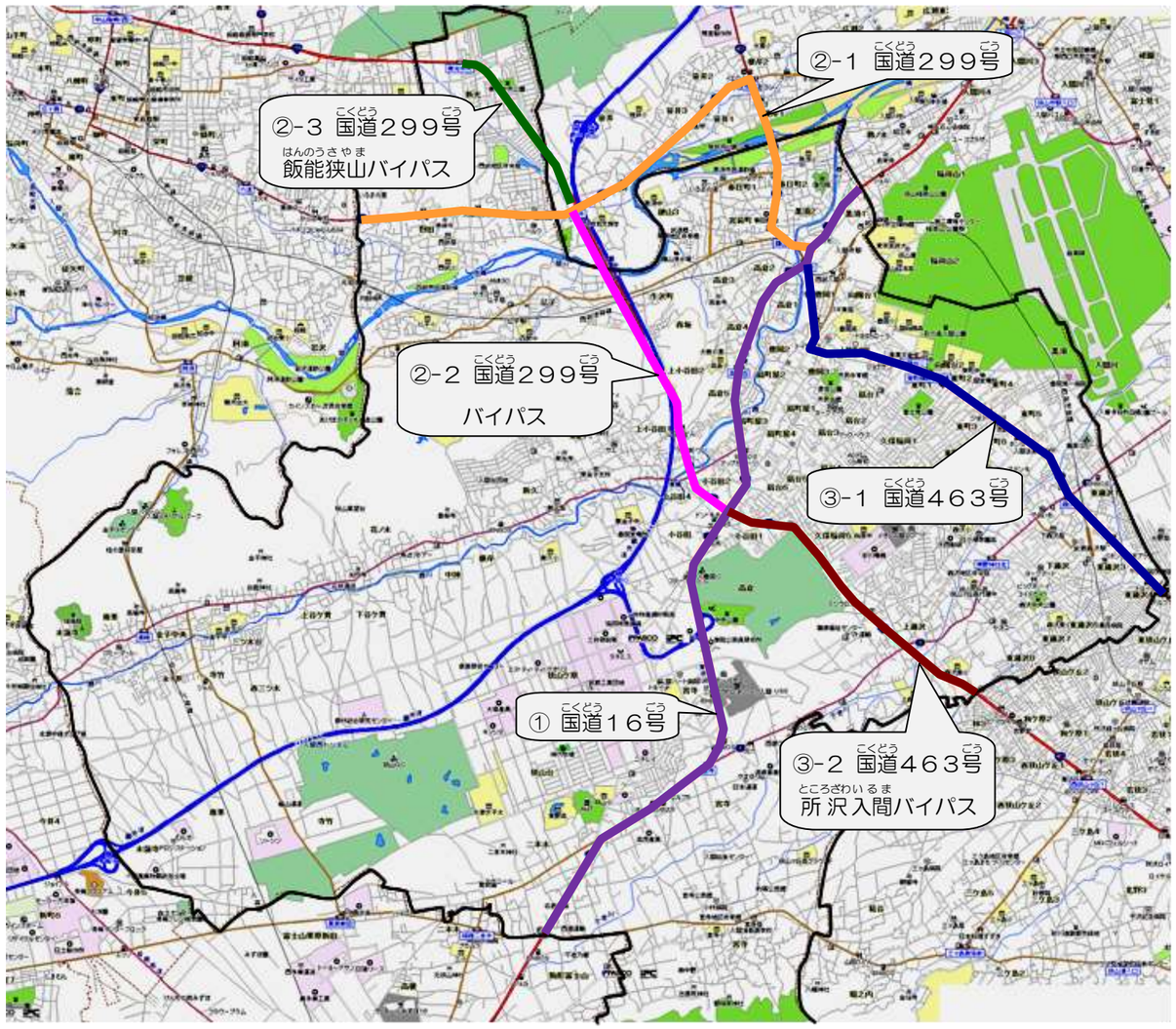
昭和４４年８月に完成。扇町屋・豊岡地区の市街地（現在の町屋通り）を迂回するバイパス。

市街地の渋滞を解消するために、「砂利道」と呼ばれていた道（米軍が鍵山からの砂利の運搬のために昭和２９年に作った道）をもとに幅１８．５メートルの４車線道路としてつくられました。

※ どちらのバイパスも現在では本線になっています。

また、ほかの区間では、少しずつ道路の４車線化が進められていきました。

（「いるま１９９６市制施行３０周年記念市勢要覧」より）



②－１　国道２９９号

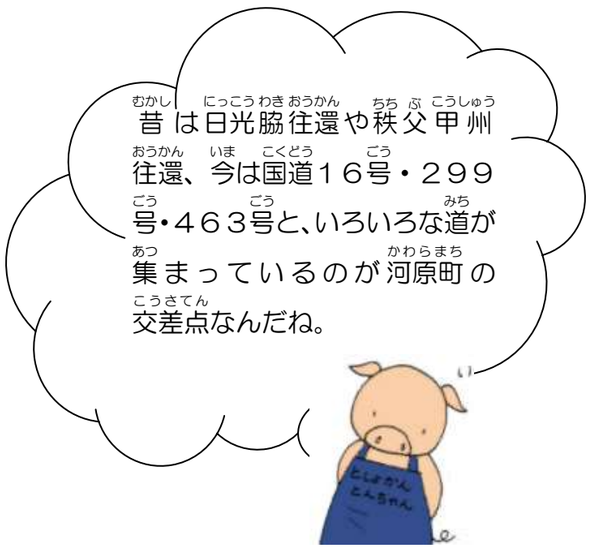
入間市河原町の交差点から飯能、秩父を通り、長野県佐久市までをむすぶ道路。昭和４５年（１９７０）に主要な県道７路線をあつめて「一般国道２９９号」に昇格しました。（地図の■色）

②－２　国道２９９号 バイパス（左の地図の■区間）

昭和５５年（１９８０）に、狭山市「笹井」交差点～入間市「小谷田」交差点の区間のバイパスが開通し河原町の交差点を通らずに国道１６号と接続するようになりました。

②－３　国道２９９号 飯能狭山バイパス（左の地図の■区間）

平成６年（１９９４）に、狭山市「笹井」交差点から仏子ニュータウンを通るバイパスが中橋通りまで開通しました。現在は、飯能市「中山西」交差点まで全線開通しています。



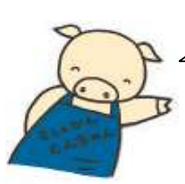
↑「市報いるま」742号より（平成8年10/1号）

③－１　国道４６３号

入間市河原町の交差点から所沢、浦和を通り越谷市までむすぶ道路。平成5年（１９９３）に、それまでの「浦和・越谷線」、「浦和、所沢線」、「所沢・入間線（通称「行政道路」）」の３つの道路をあわせて、「一般国道４６３号」となりました。（地図の■色）

③－２　国道４６３号 所沢入間バイパス（地図の■区間）

国道１６号「小谷田」交差点から所沢方面にむかう「国道４６３号バイパス」が少しずつ開通しています。現在は、所沢市「岩崎」交差点まで開通しています。



おまけ

圏央道（鶴ヶ島ジャンクション～青梅インターチェンジの区間）は、平成８年（１９９６）3月２６日に開通しました。

参考にした資料

「入間市史　民俗文化財編」　「埼玉大百科事典」（埼玉新聞社　刊）
「狭山市史通史編２」（狭山市　編・刊）
「いるま　１９９６　市制施行３０周年記念市勢要覧」
「埼玉年鑑‘９４」（埼玉新聞社　刊）
「市報いるま」３７８号（S５５.12月号）、４２６号（S58.1月号）
（『入間わがまち　いま・むかし』より）
６２３号（H3.8/1号）、７４２号（H8.10/1号）、６９４号（H6.9/1号）、
７３２号（H8.5/1号）
「読売新聞」（１９９３年3月３１日朝刊）

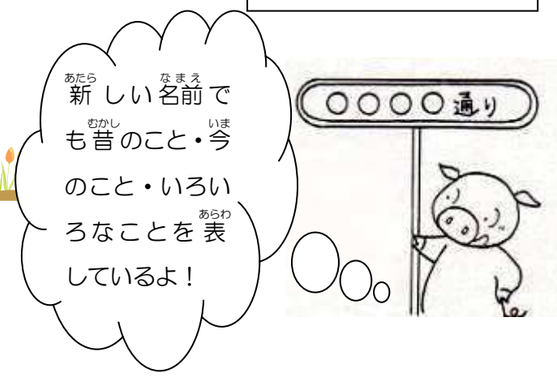
いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

Ｎｏ．２７　入間市の道（７）

―道の名前―

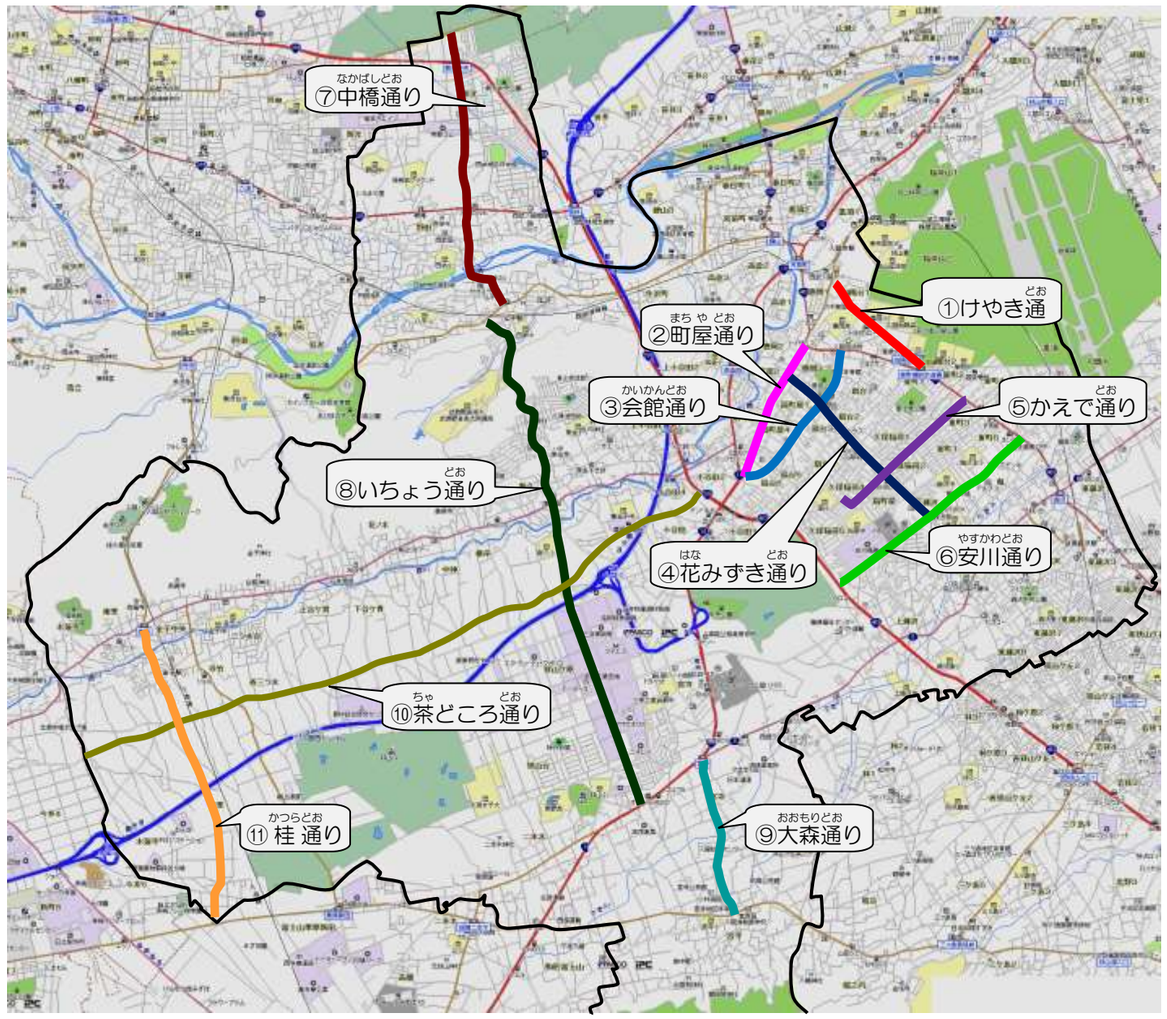
―入間市立図書館―
協　力・入間市博物館



昭和６１年（１９８６）、入間市が市になって２０周年を迎えた記念の事業の一つとして、市内１１か所の主要道路に愛称をつけることになり、その愛称を募集しました。
その結果、市民の人たちからの応募で次のような名前に決まりました。

「市報いるま」５０４号（昭和６１年６月）で募集され、５１４号（昭和６１年１１月）で発表されました。

応募総数は１３４３票！



①　けやき通り（入間市駅入り口交差点～「東町」交差点）

入間市駅入り口交差点から所沢方面へ向かうけやき並木の道。
所沢方面に向かって左側は、以前「陸軍航空士官学校」（昭和１３年～）戦後はアメリカ軍の「ジョンソン基地」、「航空自衛隊入間基地」でしたが、返還されて　現在は産業文化センター・学校などの施設や大規模な団地などになっています。

② 町屋通り（「豊岡」交差点～国道１６号交差点）

扇町屋は江戸時代から日光脇往還の宿継場として栄え、また地方市場として発展してきました。
「扇町屋の穀市」といえばこの辺りでは名高く、幕末から明治の初めにかけてが最盛期でした。
この通りには現在も商店が立ち並び、当時の賑わいを残しています。

③会館通り（市役所横の十字路～国道１６号交差点）

昭和４８年（１９７３）にオープンした市民会館の前を通る道。そのほかにも、この道沿いには、市民体育館、郵便局、中央公民館などの公共施設が集まっています。

④花みずき通り（町屋通り～安川通り）

「町屋通り」から、久保稲荷神社の横を通って「安川通り」までを結ぶ道。
道の両側には、約２００本のハナミズキや椿の木が植えられています。

⑤かえで通り（国道４６３号～扇小学校）

国道４６３号（東町）から、入間扇町屋団地を北に見ながら進み、
花みずき通りを越えて、久保稲荷公民館前で右に曲がり扇小学校にいたる道。
通りの両側には約１８０本のトウカエデの木が植えられています。

⑥安川通り（国道４６３号～国道４６３号バイパス）

藤沢地区の北の端をほぼ東西に結ぶ道。この道沿いには大きな工場や団地、大型店舗などがあり、メインストリートとなっています。

⑦中橋通り（仏子駅～県道馬引沢・飯能線）

西武地区を南北に結ぶ主要な道路。西武池袋線仏子駅正面から、旧県立繊維工業試験場前～中橋～仏子ニュータウンへと向かう道です。
国道２９９号を超えると、先は右手は住宅街、左手はミニ工業団地になっています。

参考にした資料

「市報いるま」No656・657・659・661・663・665・667・669・671・673・675・677号
（平成5年1月～12月に発行）『市内見てある記シリーズ道』より
他にも504号・514号・418号なども参考にしました。

⑧いちょう通り（国道１６号～県道富岡・入間線）

宮寺地区の国道１６号から、武蔵工業団地、加治丘陵を越えて、
県道富岡・入間線（仏子駅近く）までを南北に結ぶ道。
国道１６号から青梅・入間線までの間には、道の両側にいちょうの木が植えられています。

⑨大森通り（国道１６号「大森」交差点～県道所沢・青梅線）

国道１６号の宮寺地区「大森」交差点から、県道所沢・青梅線（所沢市街～三ヶ島～青梅を結ぶ道）までを南北に結ぶ道。
「大森」交差点近くには「崇厳寺跡」があり、そこには「旗本大森氏・加藤氏の宝篋印塔」が残されています。

⑩茶どころ通り（国道２９９号バイパス～青梅市境）

国道２９９号バイパスの「入間消防署」近くの交差点から西に向かい、青梅市に向かって茶畑の中を通る道です。
道沿いには「北狭山茶場碑入り道」の道標（「いちょう通り」と交差する所にある、日本一大きな道標）や茶業公園などがあります。
No.24に載っている昔の「青梅道」の一部です。

⑪桂通り（主要地方道青梅・入間線～瑞穂町境）

主要地方道青梅・入間線の「南峯」交差点から、桂橋を渡り住宅街を抜け、
茶畑の中を瑞穂町まで南北に結ぶ道。東側を走るＪＲ八高線とほぼ平行しています。

いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

No．28　入間市の川（1）

――入間川――

―入間市立図書館―
協　力・入間市博物館

ぼくたちのみぢかにある川。川はぼくたちのくらしにいろいろなめぐみをあたえてくれます。

① 生きていくのにかかせないのみ水や生活用水になる。

② 魚などの食べものがとれる。

③川が栄養のある土をはこんでくるところでは作物がよくとれる。

④荷物などをはこぶ交通路となる。

それで、大むかしから、人々は川のあるところでくらしてきたのです。

※参考資料は

Ｎｏ.29 にまとめてのせます。

古代文明も
チグリス川とユーフラテス川・
インダス川・ナイル川・黄河といった、
川のあるところにおこりました…。

入間市内を流れている主な川

①入間川　② 霞 川　③不老川

そのほか市内には、
・大沢川・前堀川・秋津川
（以上は入間川と合 流）
・ 林 川（不老川と合 流）
などの小さな川があります。

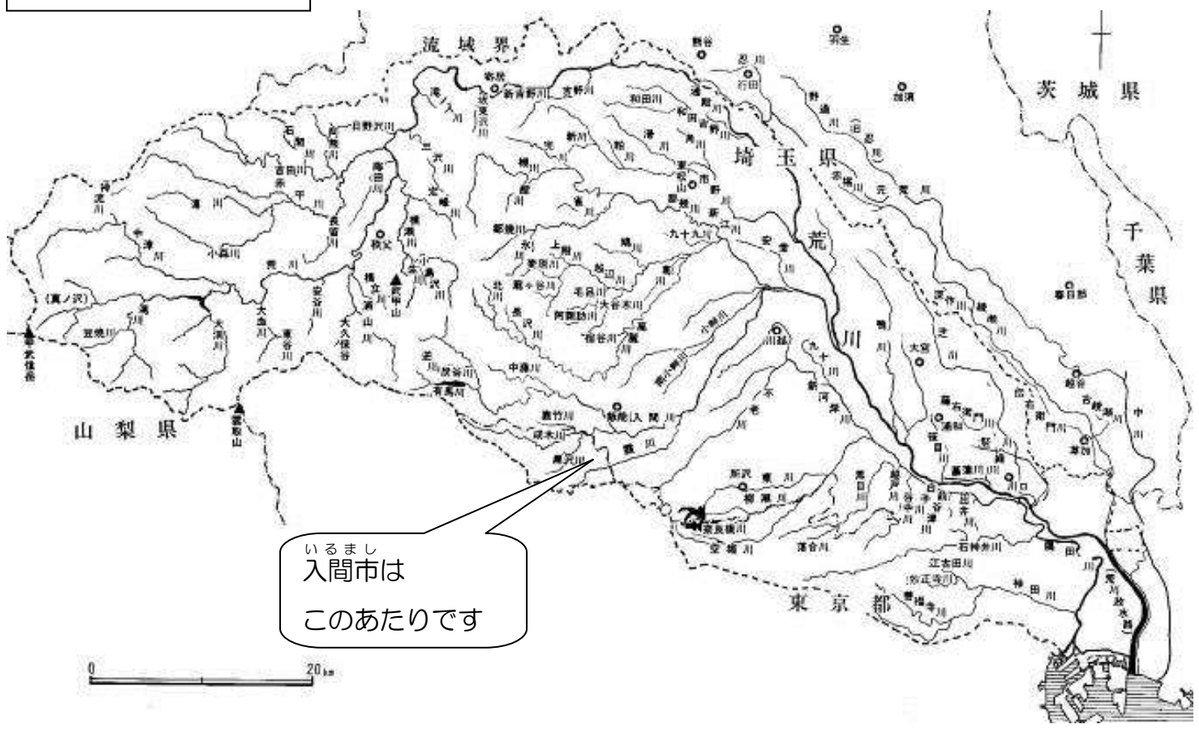
どこを流れてるかしってる？
これら市内を流れる川はすべて、最後には荒川に合 流して東 京 湾へそそぎます。

このような川を「荒川水系の川」といいます。

「いるまし」郷土指導資料研究委員会編
入間市教育委員会
より

「荒川―自然―」
（荒川総合調査報告書①）
埼玉県　刊　より

荒川水系の川は、こんなにあるんだよ。



①入間川

入間川は、いくつもある荒川の支流の中でいちばん大きな川です。

川の長さ	約６７．４キロメートル
全流域面積	約７２０．５平方キロメートル ［これは入間川に合流する支流の流域面積を含めた数。 本流のみでは１１６．２平方キロメートル］
水源地	埼玉県入間郡名栗村、大持山（1,２９４メートル）・妻坂峠ふきん （名栗村・秩父市・横瀬町のさかいあたり）
主な流路	＜上流＞名栗村、飯能市 ［山間部を流れる急流で、東にむかって流れる。］ 入間市、狭山市 流路を北東へ変え流れもゆるくなり土砂のたい積で川原ができている。２００～１００万年前の地層が現れているところもあり、そこからはたくさんの化石がみつかっている。 ＜下流＞川越市 川越台地の北側で東南へ流れを変え「上江橋」（大宮市・川越市のさかい）ふきんで荒川と合流する。
合流先	荒川
主な支流（流れこんでくる川）	・湯の沢川　・有間川　・中藤川 ・成木川　・霞川　・越辺川
名前の由来	外秩父山地の川のほとんどが入間川に流れこんでいます。 この川がおもに、むかし「入間郡」とよばれていた地域を流れていることから、「入間川」という名になったとされる。

越生町黒山三滝ふきんを源流として、高麗川・小畔川・都幾川などが合流している。

中世の文書「吾妻鏡」の中にもその名がみられる古くからの名前です。

１１８４年、入間河原※で清水冠者義高※２は源頼朝のはなった追手に討たれた。（といういみのことが書かれています。）

※「入間河原」…現在の狭山市内。

※２「清水冠者義高」…源義仲の子

現在、狭山市内国道１６号ぞい、本富士見橋わきの清水八幡の境内に清水冠者義高終えんの地」の標識がたっています。１２さいでした。かわいそう・・・

飯能市岩根橋（飯能河原の上流のあたり）より上流は、通称「名栗川」ともよばれる。

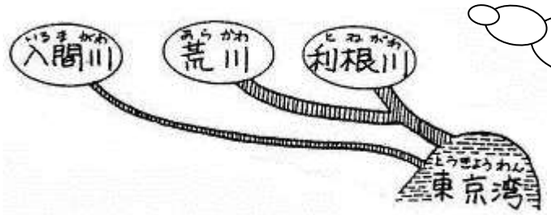
川ぞいのくらし 川の水の利用	１　農業用水として利用する。 ２　水車で、製粉や精米をする。 ３　漁業をおこなう。 ４　木材の運搬（筏流し）

飯能・名栗地域で切りだされた材木は「西川材」とよばれ、筏に組まれて入間川を下り、江戸の町まではこばれました。

ミニ知識　むかし入間川はもっと長かった！？

現在入間川は、川越ふきんで荒川と合流していますが、むかしは、単独で東京湾にそそぐ長い川でした。（下流部は隅田川といいました）

また、荒川と利根川は合流して、東京湾に流れていました。



２つの大きな川が合流していたため、下流の低地では雨がふるとたびたび水害にみまわれました。

そこで江戸幕府は伊奈氏に命じて――

荒川

伊奈半十郎忠治は、熊谷市久下で荒川をせき止め、水が和田吉野川を通って入間川へ流れこむようにした。寛永６年（１６２９）

利根川

東京湾にそそいでいた流れをかえて太平洋へそそぐようにした。（1621年）

この工事により、入間川の川越市より下流の部分は「荒川本流」となり、入間川はそれより上流の部分のみとなりました。

このような工事を「瀬替え」といいます。

いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

No．２９　入間市の川（２）

――霞川・不老川（としとらずがわ）――

―入間市立図書館―
協　力・入間市博物館

新編武蔵風土記稿」第６巻より

②霞川

川の長さ	約１５．８キロメートル
全流域　面積	約２５．３平方キロメートル
水源地	東京都青梅市根ヶ布にある天寧寺の裏の「霞池」。
主な流路	＜上　流＞ 青梅市 → 入間市 ＜下流＞ 狭山市 北側の加治丘陵と南側の武蔵野台地の間を流れる。 狭山市鵜ノ木で入間川と合流する。
合流先	入間川
主な支流（流れこんでくる川）	・柿沢　・中川　・お城川　など

名前の由来	源流の「霞池」には、「かつみ草」がたくさん生えていたので、この池のことを古くは「カツミ沼」とよんでいた。これがしだいに「勝沼」と略されのちに「カスミ沼」・「霞沼」・「霞ヶ池」などと記されるようになった。それがもととなり、「霞川」という名前になったとされる。 ※「かつみ草」とは、マコモ（真菰）の古い名前。イネ科の淡水に生える多年草。別名「ハナガツミ」「コモ」など。 「日本国語大辞典」小学館「川の生物図典」山海堂より そのほか ・中世のころは、勝沼川。 ・入間市の上流部では、桂川・葛川。 ・江戸時代、下流部の入間川と合流する辺りでは、黒須川。 などの名前もありました。
川沿いの暮らし 川の水の利用	◎農業用水として利用する。 ◎かつては、水量こそ少ないがきれいな水だったので、野菜洗いや洗濯などに利用されていた。 ◎梅雨のころ、秋の増水期には「荒れ川」といわれ、たびたび洪水を引き起こした。 ・【明治４３年（１９１０）】霞橋が流される。 ・【大正４年（１９１５）】武蔵野鉄道（現在の西武鉄道）の、河原町の鉄橋が壊れる。 ・【昭和２０年（１９４５）】堤防が約３６メートルにわたって決壊し、２人の方が亡くなる。 などの被害があったが、今では堤防など整備・改修されている。

ミニ知識　よく耳にする「一級河川」とは？

「一級河川」とは、大きな川でたくさんの人々の生活に密着している重要な川をいいます。
「一級河川」に流れこむ川なら、どんなに小さい川でも「一級河川」となります。
「荒川」が一級河川なので、入間市を流れている川は　みんな「一級河川」です。

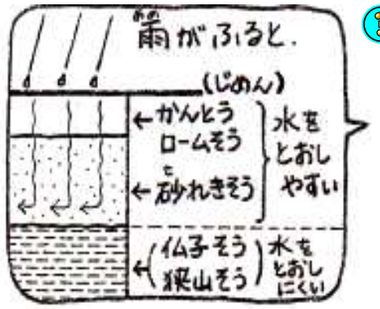
ふろうがわ（としとらずがわ）

③不老川

川の長さ	約１７キロメートル
全流域 面積	約５９．８平方キロメートル
水源地	狭山丘陵付近の湧き水や雨水を水源とする。
主な流路	＜上流＞ 瑞穂町 入間市 所沢市 狭山市 ･･･入曽・堀兼 狭山丘陵から付近の湧き水などを集めながら、武蔵野台地の中を北東に流れる。 ＜下流＞ 川越市 ･･･今福・岸町と流れて新河岸川と合流する。
合流先	新河岸川 新河岸川は、昔は荒川に合流していましたが現在は隅田川に合流しています。大正時代の工事で「荒川放水路」がつくられて、昭和３９年（１９６４）にそちらが正式に「荒川」となり、それまでの荒川下流部が「隅田川」となったからです。
主な支流（流れこんでくる川）	林川
名前の由来	この川は、冬になって「年越し」の季節になると水が枯れてしまう。翌年の春に雨が降るまで川がなくなってしまい、川が年を越さないので「不老川（としとらずがわ）」と呼ばれている。

新河岸川は曲がりくねりが多く、いつも一定の水量があるので舟運（船で荷物を運ぶこと）が盛んでした。

川沿いの暮らし 川の水の利用	・農業用水として利用する。 ・この辺りの土地は、地面のすぐ下に水を通しやすい地層、その下に水を通しにくい地層があるため、水はすぐに地面に浸み込むが、深くは浸み込まないで浅い所を流れている。そのため井戸掘りの技術が広まると、人々が住みやすい所になった。しかし大雨が降ると排水が悪く、川沿いでは水が溢れ、多くの被害をもたらした。



なぜ　冬になると　川の水がなくなるの？

不老川（としとらずがわ）は狭山丘陵の湧き水や雨水を水源とするため、雨が少なくなって川の水の量が少なくなると、水はみな地面に染み込んでしまい、流れる分がなくなってしまうのです。

No.２８・２９「入間市の川」で参考にした資料

- 「入間市史（通史編・民俗文化財編）」
- 「入間市の文化財（第３集・第７集）」入間市文化財保護審議委員会編
- 「埼玉大百科事典」埼玉新聞社　編・刊
- 「角川日本地名大辞典（⑪埼玉県⑬東京都）」角川書店　編・刊
- 「日本歴史地名大系⑪埼玉県の地名」平凡社　編・刊
- 「荒川―自然―（荒川総合調査報告書①）」埼玉県　編・刊
- 「青梅市史」　青梅市教育委員会　編・刊
- 「青梅を歩く本」
- 「日本の川を調べる①」犬井正　著　理論社　刊
- 「瑞穂町史」瑞穂町史編さん委員会編　瑞穂町役場　刊
- 「身近な川について考えよう」不老川流域編　リバーフロント整備センター　刊
- 「荒ぶる川の恵み――滝沢ダムものがたり――」財団法人水源資源協会　刊
- 「入間川再発見！―身近な川の自然・歴史・文化をさぐって―」埼玉県西部地域博物館　入間川展合同企画協議会　編・刊
- 「不老川の絵本」池原昭治　著　花伝社　刊

※川についての数字のデータは「荒川―自然―」によりました。

いるま・こども郷土資料

どんなところ？ぼくのまち

Ｎｏ．３０　入間市・橋あれこれ

（霞橋・中橋・上橋・豊水橋・新豊水橋）

ー入間市立図書館ー
協　力・入間市博物館

《入間市内のおもな橋》

ここにのせたもの以前にも、むかしから市内の各地でかんたんな橋がかけられました。

（１）霞橋（霞川にかけられています。）

①明治16年（１８８３）

明治天皇の飯能巡幸にあたって急きょ、木製の橋がかけられました。

※橋脚を１本たてて、その上に黒須の蓮華院の杉の大木を２つに割ってわたした手すりのない橋でした。

「入間市史　民俗文化財編」より

洪水の被害による橋のかけかえをたびたびくりかえしたのち・・

②昭和１７年（１９４２）

コンクリート製の橋にかけかえられました。（これが現在の橋です。）

（２）中橋（入間川にかけられています。）

①明治２２年（１８８９）

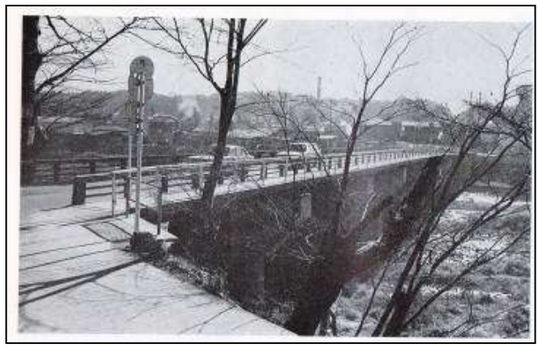
仏子村と野田村が合併して「元加治村」となったときにかけられました。そのころ仏子地区と野田地区をむすぶただひとつの橋で、通称「高橋」とよばれていました。

「市報いるま」No.380（S56.1月号）より

木製の橋だったので、その後も洪水のたびに被害をうけ、地元の人はかけかえや修理にたいへんでした。

②昭和２９年（１９５４）２月

洪水などの被害をうけにくいコンクリート製の橋にかけかえられる。



そのころの中橋

「入間市の文化財　第３集」より

③昭和４５年（１９７０）3月

歩行者がとおりやすいように歩道の橋もかけられる。

④昭和５８年（１９８３）６月

新しい中橋が完成。（これが現在の橋です。）

※前の橋が交通事情にあわなくなったため昭和５６年よりかけかえ工事がおこなわれました。工事のあいだは近くに仮の橋がつくられていました。

「中橋」については、
- 「町村長物語」（P116～117年表）
- 「市報いるま」
No.380（S56.1月号）
No.395（S56.9月号）
No.437(S58.7月号)

（3）上橋（入間川にかけられています。）

①明治～大正時代

中橋が野田と仏子をむすぶただひとつの橋だったため、もっと上流にすんでいる人にとっては不便でした。そこで地元の人たちは「上橋」をかけることにしました。

※この上橋がいつごろ完成したのか、くわしいことはわかりません。

②昭和３３年（１９５８）

上橋がかけかえられる。

そのころの上橋
「市報いるま」
Ｎｏ.573
H1.6 月号
より

はばが約３メートルほどの橋でした。

③平成３年（１９９１）3月

コンクリート製の新しい橋が完成。
（現在の橋です。）

※前の橋ができてから３０年以上たって老朽化したため、平成元年より橋のかけかえ工事がおこなわれました。

「上橋」については・・・

- 「町村長物語」（P116～117）
- 「入間のよもやまばなし」
  『上橋いまむかし』に、むかしの上橋のようすがくわしくのっています。
- 「市報いるま」No.573（H1.6月号）
  No.613（H3.3月号）

◎「上橋」・「中橋」のほかに、大正時代まで「下橋」という橋もあったということです。

「町村長物語」（P.117）より

この号で参考にした資料

「町村長物語ー入間市域の近代のあゆみー」
（入間市文化財研究同好会　編・刊）
「入間のよもやまばなしー入間市史協力員文集ー」
「入間市史（民俗文化財編）」
「入間市の文化財（第３集）」
（入間市文化財保護審議会　編）
「歴史の道調査報告書　第９集　入間川の水運」
（埼玉県　編・刊）

「市報いるま」
Ｎｏ.350・380・395・412
437・573・613
「社会科はじめて大百科⑤のりものと交通」
（山口竜也　編　ポプラ社）
「調べ学習にやくだつくらしの歴史図鑑④
交通・通信の歴史」（ポプラ社　編・刊）

（4）豊水橋（入間川にかけられています。）

①江戸時代…「根岸の渡し」

日光脇往還の道すじにあたり、川の水の多い季節には船をつかい、川の水が少ない季節になると仮の橋をかけて人々を渡していました。

②明治時代のおわりごろ

長さ約１８メートルほどのかんたんな木橋がかけられていましたが、洪水でたびたび流されてしまいました。

③大正９年（１９２０）

しっかりした橋をのぞむ地元の人たちのはたらきかけにより、木製の「豊水橋」がかけられる。※橋の両岸の、豊岡町（現在、入間市）と水富村（現在、狭山市）の名前を一字ずつとって「豊水橋」と名付けられました。橋のたもとには、粕谷義三氏の書による「豊水橋架設記念碑」が大正１０年にたてられました。

・粕谷義三・・・入間市出身の政治家。当時、衆議院の副議長（のち議長）をつとめていました。市民会館に銅像があります。

④昭和４年（１９２９）

コンクリート製の橋にかけかえられる。

※前の橋は木製だったため洪水の被害も多く１０年でかけかえることとなったのです。

豊水橋は、昭和4年10月、完成の直前に、入間川の大水によって一部こわれてしまいました。そのため工事をやりなおし、実さいにわたれるようになったのは昭和５年（1930）です。

⑤平成１５年（２００３年）

前の橋ができてから７０年以上たって老朽化したため、新しい橋になりました。
歩道が広いとても通りやすい道路になりました。

『豊水橋』については、

- 「町村長物語」（P.49）
- 「入間川の水運」（P.36）
- 「入間のよもやまばなし」
  『豊水橋物語』には、むかしの橋の写真や当時のようすがくわしくのっています。
- 「市報いるま」Ｎｏ.412（S.57.6月号）

（5）新豊水橋

昭和５４年（１９７９）8月２２日、国道２９９号バイパスの入間川にかかる橋として開通しました。

- 「市報いるま」No.350（S54.9/15号）